

# 令和6年度「広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業」成果報告書

## くるみの森による里山づくり

広島県立千代田高等学校

### 1. 事業目的

北広島町は、人口減少に加え、高齢化率 37.8%と高い水準の地域である。町内には放置されたままの遊休農地が多くあり、人が山に入らないことによる鳥獣被害が深刻である。

森と里の緩やかな境界線づくりを目指して活動する「ワイルドシロップの会」と、広島県教育委員会の事業「中山間地域わくわく事業」により地域の活性化を目的に平成27年より活動し、地元の特産物を使ったスイーツを考案し学校内外でのイベント等に参加し、販売活動等を行っていた「縁まんプロジェクト」が共同で、故郷の風景を守ることを活動の目的とする。

### 2. 実施内容

令和3年、「柵を無くして人と野生動物とのゆるやか境界線づくり」を目的に活動する「ワイルドシロップの会」より、地元高校の生徒と一緒に活動できないかとの打診を受けたことをきっかけに、現在の活動に至っており、この共同での取組は4年目となる。

#### 「ワイルドシロップの会」活動趣旨

- ・豊かな自然やふるさとの田園風景を将来にわたって守りたいという思い。
- ・しかし、実情として高齢化や担い手不足による里山の消失から鳥獣柵に頼らざるを得ない。
- ・鳥獣柵の設置には費用も労力もかかるという現実。
- ・持続可能な農業の一環としての里山再生。

この活動が、「縁まんプロジェクト」の活動目的でもある、地元貢献や地域とのつながりを深める機会ととらえ、「縁まんプロジェクト」または1学年の「総合的な探究の時間」での取り組みとして活動を行なった。

令和6年度の活動内容については、以下のとおりである。

#### (1) 縁まんプロジェクト同好会の活動

##### ① 「くるみ」を使った「お菓子づくり」(令和6年5月1日 水曜日)

部活動紹介を経て集まった新メンバーとともに、参加生徒22名で、「パウンドケーキ」に挑戦。くるみは前年に採取し冷凍保存しておいたものを使用。

#### (2) くるみの森プロジェクト

##### ① くるみ採集～洗浄～保管(令和6年10月9日 水曜日～)

ワイルドシロップの会が地権者より許可をいただき管理される場所でメンバー14名が参加。この日の採集分を含め、今年度54kgのくるみを採集した。



② くるみ染め体験(令和6年11月9日 水曜日)

乾燥保存しておいた果を染色材料に、縁まんメンバー23名が染色を体験。講師として「ワイルドシロップの会」より2名の講師により体験。

(3) イベント参加

① 文化祭(令和6年6月15日 土曜日)

「ウォールナットオイル」「くるみ粉ちゃん」「くるみの殻」と「くるみのパウンドケーキ」の販売と活動紹介のパネル展示やリーフレットの配布などを行なった。

② 絵本フェスタinきたひろしま(令和6年9月1日 日曜日)

「絵本」をキーワードとした子どもから大人まで楽しめる「絵本フェスタ」が北広島町町づくりセンターにて開催され、近隣高校とともに、千代田高校縁まんプロジェクトも出店。ウォールナットオイルなどの商品の販売と活動紹介パネルの展示を行なった。

③ インターハイ応援フェスタ(令和6年12月14日 土曜日)

エキキタパークで開催された、令和7年に開催されるインターハイの応援イベントに参加し、くるみ商品の販売と活動紹介のパネルを展示した。



絵本フェスタ



インターハイ応援フェスタ

(4) 地域について知り、学ぶ機会として(1年生「総合的な探究の時間」)

① 「ワイルドシロップの会による「里山づくりに関する講演会」(令和6年9月4日 水曜日)

講師2名を招き、「里山づくりに関する講演会」を実施。今回で4回目の実施となった。北広島町が抱える課題や鳥獣被害や対策、何を目的とした活動なのかなど、今地域が抱える現状について理解を深めた。



② くるみの種まき&実のほじり出し体験(令和6年12月11日 水曜日)

収穫したくるみの種まきを実施。その後、実際に、殻を割って実をほじり出す作業を体験。作業は、縁まんメンバーが各グループのリーダーとなり、準備・説明・作業・片付けなどの指示役となった。



### ③ くるみ染め体験(令和7年2月12日(水))

11月に縁まんメンバーで体験した「くるみ染め」を、1学年全員で実施。縁まんメンバーによる作業指示ののち、白布に各自で、ビー玉や輪ゴム等を使って、絞りでデザインし、染色。今回、染色したものは来年度の文化祭にて展示予定。



### 3. 事業実施による成果

「くるみの森プロジェクト」開始から4年。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、行動制限や活動自粛が言われるなか、校内での活動がメインだったことで広く紹介する場面がなかったが、学校外でのイベントに参加し、販売およびパネル展示などで学校外の人に本校の取組を周知できたことは大きな成果である。

中山間地域にある学校として、これまでも意識づけをするような取組をしてきた。地域の課題に着目し、問題解決に向け自分たちにできることを考え行動することを目的とした「地域探求講座」は1年次に実施している。全校生徒149名という小規模の学校で、生徒の90%が地元中学校(千代田・大朝・豊平・芸北)の出身である。地元愛が強い生徒が多く、広島県教育委員会が実施する「中山間地域の次世代を担うリーダーの育成」事業におけるアンケート結果からも地元について好意的なイメージや愛着を持つ生徒が多いことがわかる。

ワイルドシロップの会による写真や資料を交えた講演により、自分たちがイメージする「北広島町」とはかけ離れた北広島町の現状を知り理解を深め、何ができるかを考えるきっかけとなった。授業では、「あなたならどんなバッファゾーンを作る」というテーマのもとグループワークを行ない、人と森を結びつける高校生ならではのプランを話し合った。この講演を機に、縁まんプロジェクトの活動に関心を持った生徒が増えた。

くるみの採集のために入った山は、事前に草刈はしてあるものの、木は生い茂り、地面には、猪によって掘りかえされた場所も多く、講演では聞いていた「獣による被害」の実態を、荒らされた地面から実際に感じとり、森に起きている異変を見ることができた。山に入ることで、鳥獣対策として柵に囲われた田畑や山、イノシシによって掘りかえされた地面、獣の足跡、檻などを実際に目の当たりにし、高齢化や担い手不足による田畑の荒廃などを実感することができた。



くるみの活用について、新たに染色に挑戦するなど、今後につながる取組ができた。その後の「総合的な探究の時間」等で実施した染色作業の中では、縁まんプロジェクトのメンバーがグループリーダーとなり、作業工程などの必要な指示を出せるよう、事前にシミュレーションなどを行なった。それにより、生徒の中に、メンバーや中山間地域次世代リーダーとしての自覚、時間を守る、接客場面での挨拶など、責任をもった行動をとれるようになったことも活動の成果の一つである。

#### 4. 【中山間地域の次世代を担うリーダーの育成】アンケートより

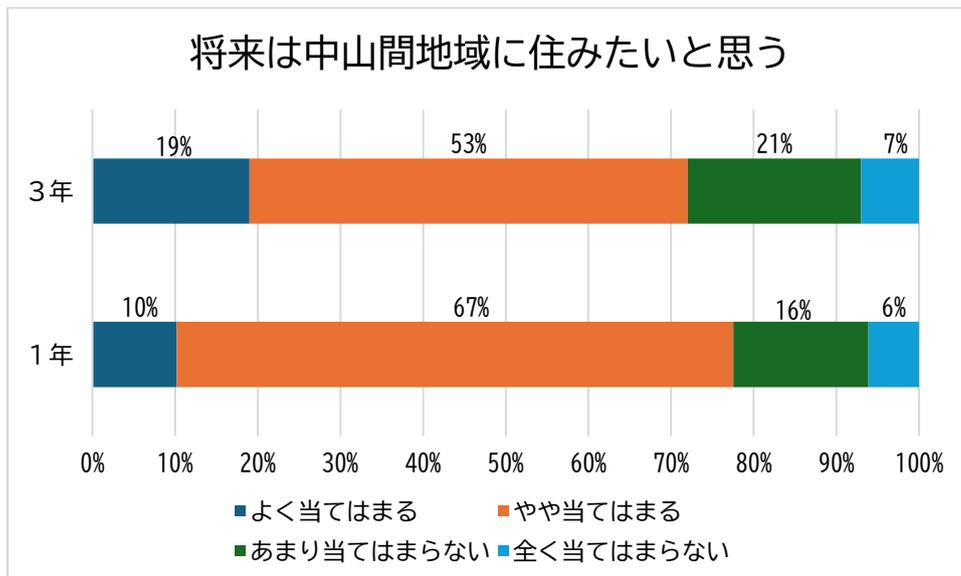
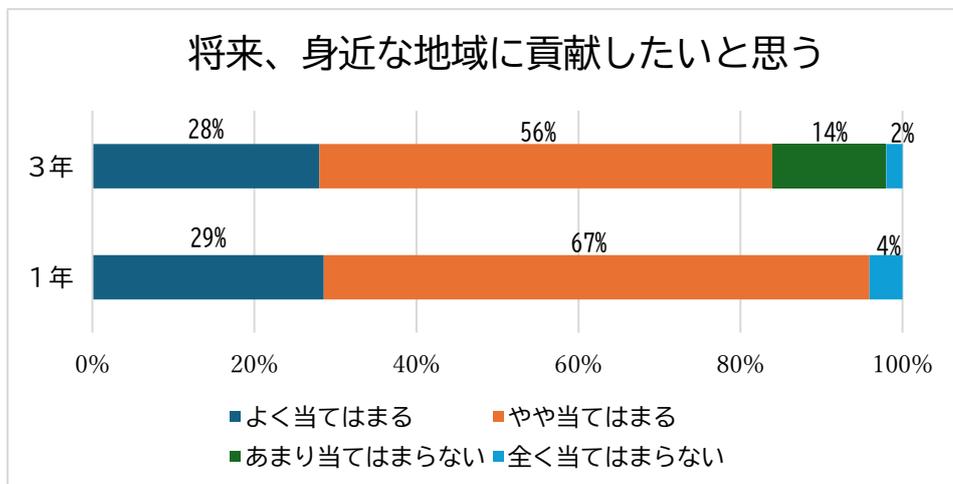
| 質 問                                 | よく当てはまる |     | やや当てはまる |     | あまり当てはまらない |    | 全く当てはまらない |    |
|-------------------------------------|---------|-----|---------|-----|------------|----|-----------|----|
|                                     | 1年      | 3年  | 1年      | 3年  | 1年         | 3年 | 1年        | 3年 |
| 地域に関する学習や体験活動を行うことで地域の良さに気付くことができた。 | 57%     | 37% | 41%     | 53% | 0%         | 7% | 2%        | 2% |
| 通っている高等学校の地域が好きである。                 | 47%     | 37% | 53%     | 53% | 0%         | 7% | 0%        | 2% |

##### 【印象に残っている学習や体験活動】

地域の清掃活動・縁まんプロジェクト・くるみの森プロジェクト・雪かき・小学生との交流  
地域イベントでのボランティア活動など

##### 【通っている地域の好きなおところ】

地域ならではのイベントがたくさんある（花田植え、神楽）・自然環境（景色、空気、雪が多い）・歴史



##### 【貢献したい理由】

地元ならではの地域課題を解決したい・お世話になった人たちへの恩返しをしたい・広島文化が好きだから・千代田が好きだから・故郷が廃村になってほしくないから・地域を活気づけて盛り上げたい・いろんな人に千代田を知ってほしいから・すごしてきた馴染みのある場所だから・家族がいるから・優しい人がたくさんいるから・今の風景がどうなるのかに興味がある。

#### 【中山間地域に住みたいと思う理由】

仲間や家族がいる・住み慣れているから・自然に囲まれて落ち着くから・森の雰囲気がいい・空気がきれい・伝統芸能が好き・地元にいると安心・地域の人々のやさしさ、温かさ・将来、中山間地域で働きたいと思っているから・いろんな発見があるから・静かで過ごしやすい・家が好き・親と近いところに住みたいから

#### 【住みたくない理由】

便利が悪い・寒すぎる・住みたいけどいろいろなところに行ってみたい・お店が少ない・将来は海外に住んでみたい

#### 【里山づくり講演会を聞いて】

山や自然がすごく好きなので自分でもどうしたら貢献できるか考えたい。森林をきれいにするための活動をしたい。自分も地域活性化のためにボランティアに取り組んでいきたい。バッファゾーンという言葉を知った。山に入ることが少なくなったという課題があることがわかった。山里には解決したくてもできない大きくて厄介な問題があると知った。僕にも鳥獣柵のない森づくりの案を考える事はできると思うので少し考えてみようと思う。今日の講演会を聞いて、「なるほどな」と思ったことは、植林する木にオニクルミを選んだ理由です。クルミの木は果実も種も樹皮も樹液も全て使えて一石五鳥だと思いました。